

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径

No.135

2020 January

1月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

蛇の道は蛇

同類の者が行うことは、同類の者には簡単に理解できることのためです。「蛇」を「じゃ」と「へび」に読み分けているところが面白いですね。

『学校版「人生手帳」』のすすめ

- 中長期的な視点から、夢や目標をもつことは、目的意識をもって主体的に生きていくためにとても大切なことです。
- 将来の進路について、小学校から高等学校まで継続的に記録し、折々に振り返るための教材が『学校版「人生手帳」』です。

今月の電子メールの日
記念日 (1月23日)

平成6年(1994年)に、電子メッセージング協議会(現在のEジャパン協議会)が制定しました。
「1(いい)23(ふみ)」(いい文、E文)の語呂合わせです。

生活における見通しと振り返り

学習において、見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れることが求められています。見通したり振り返ったりする活動は学習だけでなく、日常生活場面においても重要です。振り返ることにより、それまでの取り組みに対する成就感や達成感を味わうことができ、先が見えてくると、姿勢や行動がさらに主体的になるからです。

年度や学期の初めに、子どもたちに目標を立てさせることがあります。そこには、子どもに自らの課題を明確に意識させ、学校生活を主体的に送らせたいという教師の願いがあります。また、1日の終わりには1日を振り返り、頑張ったことや反省すべきことを確認させています。このような取り組みは学期末などにも行われています。

また、キャリア教育や進路指導の観点から、将来の夢や目標について語り合うことがあります。なりたい職業を意識すると、その職業について情報を収集したり職場を見学したりするようになり、目標が具体的になります。将来のことを考えることがきっかけになって、意欲的、主体的に生活しているという態度が養われます。

ところが、こうした取り組みが1年ごとになっていて、継続していないように思われます。翌年度担任が変わると、前年度の子どもの意識や関心が次の担任に引き継がれていないという問題です。子どもの意識や関心は継続しているのに、教師の側に連続性がないのは問題です。こうした問題をどのように解決したらよいのでしょうか。

記録を長期に残す工夫

学期の初めに学習や生活に対する目標を書き込む。将来なりたい職業を書き、どのような人間に成長したいか、そのためにどのようなことに努力するかを書く。そして、学期や年度の終わりには、それまでを振り返って、成果や反省事項などを書く。こうしたことが記録できる冊子が用意されているとよいのではないのでしょうか。

キャリアを形成していくには、こうした取り組みを小学校1年生から積み重ねていくことが大切ではないかと考えます。6年間継続して記録していくと、それぞれの時期の関心や思いが記録として残りますから、一人の人間としての成長の様子がわかります。

6年間という長期にわたって、目標や将来のことを記録に留めていくためには、1枚のシートのようなものより

も小型のノート(手帳)形式のものがよいでしょう。各ページは学年の発達段階に応じて、文字や内容、記入欄などを工夫します。装丁も6年間耐えられるように丈夫なものにします。

手帳はいつでも手元に置き、学級活動の時間に活用することもできます。過去の記録を見ると、学年によって、変容してきたことにも気づきます。中学校や高等学校には校則などを掲載した「生徒手帳」があります。内容は異なりますが、これは小学生版の「キャリア手帳」と言えるでしょう。

子どもたちは中学校に進学すると、将来の進路をより深く考えるようになります。高等学校では将来の職業をより現実的に考え、先の進路を決定していきます。このように考えると、小学校で行われるキャリア形成は、社会人になるための準備教育の一環であることがわかります。

小学校から使い始める「キャリア手帳」が高等学校を卒業するまで活用できるとよいのではないかと考えます。これは学校版の「人生手帳」だと言えます。「人生手帳」を有効に活用するには、小学校と中学校と高等学校の三者の連携・協力体制が欠かせません。将来の進路につながり、キャリアの形成に役立つ教材のあり方を各学校や地域で考えてみてはいかがでしょうか。

子どもとの関わりのもち方

教師と子ども一人一人との関係づくりは、子どもたちの学校生活への充実感や学校・学級への帰属意識と深く関わっています。普段から子どもたちとの信頼関係を構築する努力が欠かせません。子どもたちは十人十色。それぞれが個性豊かな人格をもっていますから、教師との関係を良好に保てる子どももいれば、しっくりいかない子どももいます。時にはぶつかってしまうこともあります。

子どもと教師との関わりを考えると、両者を茶碗と布団の関係にたとえることができます。互いにいがみ合うことは、両者が茶碗になっていることです。茶碗同士がぶつくと、双方が割れてしまいます。子どもがイライラしたり、頑固になったりしているときは、子どもが茶碗になっている状態ですから、教師が布団になると、相手は壊れません。柔らかく接するとは共感的、受容的に受けとめることです。

人間だれでも褒められたり認められたりすると嬉しいものです。教師から褒められていやな気持ちになる子どもはいません。友だちや学級の役に立っているという自己有用感をもたせることも大切です。課題や問題点を指摘するより、よさや成果を積極的に認め伝えるほうが効果的です。

子どもとの良好な関わりをもつポイントは、教師の言葉かけにあります。子どもは先生から温かく見守られていることを実感するようになると、教師を見る目が変わります。休み時間に子どもたちと遊ぶことも大切です。子どもの違った面が発見でき、教師が子ども理解を深めるとともに、子どもが教師を理解する機会になるからです。

教育の動向

2019年版「子供・若者白書」

政府の2019年版「子供・若者白書」が公表されました。白書は、若者の意識の国際比較の調査結果を紹介しています。調査は、2018年11～12月に、13～29歳の若者を対象にインターネットをとおして実施されました。調査国は、日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデンの7か国です。調査の結果を一部紹介します。

「自分自身に満足しているか」という問いに対して、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を合計すると、アメリカが87.0%、

フランスが85.8%、ドイツが81.8%、イギリスが80.1%と、いずれの国も8割を越えています。日本は45.1%と、7か国中で最低でした。ちなみに、スウェーデンは74.1%、韓国は73.5%でした。

また「自分には長所があるか」という問いには、「ある」と回答した割合が、ドイツが91.4%、アメリカが91.2%、フランスが90.6%、イギリスが87.9%と高い割合だったのに対して、日本は62.2%と、これも7か国中で最低でした。

日本の若者は、諸外国と比べて、自分に対する肯定感が著しく低いことが改めて明らかになりました。背景には国民性の違いでは済まされない、根本的な問題がありそうです。

北 俊夫の「実践と研究」の足あと

3

地域の「勉強会」で学んだこと

地域に社会科について勉強する自主的な勉強会がありました。月に1回、土曜日の午後に開催され、だれでも参加することができました。社会科主任を任されていたこともあり、「参加してはどうか」と声がかかりました。

初めて参加したとき大きな衝撃を受けました。社会科授業について協議しているときに、「学習問題」とか「問題」という言葉が飛び交っていたからです。当時「問題」とは算数の時間に提示するものと考えていたからです。

「教師の出番」「ゆさぶり」「子どものつばやき」など先生方が話している「言葉」が理解できませんでした。

勉強会では必ず「授業記録」が配布されました。カセットテープで録音した授業の様子を文字に起こしたものです。

「それで」「うーん。わからない」など授業での発言やつぶやきなどを含めて、すべてが文字になっていました。パソコンなど便利な道具はありませんでしたから、すべて手書きです。参加された先生方は、記録を読みながら、あたかも実際に授業を参観したかのように意見を述べていました。

当時、私は授業記録を読むだけで精一杯でした。意見を述べることなどできませんでした。記録の読み方がわからないからです。参加者から「どうして、〇〇と発問したのか」「ここでM子の発言を取り上げなかったのはどうしてか」などの質問が授業者に向けられました。その意図など理解できる状況ではありませんでした。その場で学んだことは、授業研究では授業記録が重要な材料になり、授業記録をとることが大切であることです。

INFORMATION

新学習指導要領完全対応

2020年度新英語教材!

5・6年



3観点評価完全対応!
聞く・読む・話す・書くの
4技能も評価!

5・6年



コミュニケーションに
必要な語彙力や表現力を
楽しく習得!

3~6年



楽しい活動を通して
コミュニケーション力の
基礎を育む!

編集後記

謹んで新年のご挨拶申し上げます。今年も「教育の小径」をよろしく願います。2020年も様々な変化が起こるかと思いますが、流れに乗り遅れることなく、時には先読みして対応していきたいと思っています。(K記)



企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2020年1月1日